



京都大学医学部附属病院
先端医療研究開発機構 (iACT)
5周年記念シンポジウム

機構発足後 5年の軌跡と 将来展望

先端医療イノベーションの
加速と社会実装を目指して

日時 2025年11月7日(金)
15:00-17:40 * シンポジウム後に
懇親会も実施します。

場所 京都大学医学部構内
芝蘭会館稲盛ホール

対象 臨床研究に興味を持つ
企業・研究者など

iACTは皆様の温かいご支援とご指導のもと、2020年の改組から5周年という記念すべき節目を迎えることができました。京大病院は2017年の臨床研究中核病院に加え、5年の間に2021年の橋渡し支援機関への認定、2023年のAMED「再生・細胞医療・遺伝子治療研究実用化支援課題(規制・社会実装支援課題)」、2024年のAMED「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点(スタートアップ支援強化枠)」、2025年にはAMED第三期「異分野融合型研究開発推進支援事業」に採択いただき、様々な研究支援と社会実装に取り組んでまいりました。本シンポジウムはこれまでの活動や成果を振り返り、一層の発展につなげることを目的として開催します。本シンポジウムが、ご参加の皆様にとりまして、先端医療研究開発の動向と可能性に触れ、新たな知見や連携のきっかけを見出す場となりましたら幸いです。

参加無料

同時配信
および
オンデマンド
配信あり

主なプログラム

● 基調講演

「我が国の医療研究開発戦略と
アカデミア・産業界連携への期待」

中島宣雅

(前 内閣府 健康・医療戦略ディレクター、京都府立医科大学)

「アカデミア発シーズの実用化促進と
産学官連携の重要性」

金田安史(大阪大学/AMEDプログラムディレクター)

「製薬産業からみたアカデミア発
イノベーションへの期待と課題」

澤田拓子(京都大学)

● 主催者報告

「iACTが挑む先端医療開発の最前線
——5年間の成果から」

● 研究報告

「医療機器:臨床上の課題から研究開発へ
——MIPSの誕生によるリアルタイムナビゲー
ション手術の実現」

西野裕人(京都大学)

「医薬品と医療機器のダブル治験:
難治性食道がんに対する新たな治療法を
開発・実用化し、変革を起こしたPDT」

武藤 学(京都大学)

「再生医療:iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」

高橋 淳(京都大学iPS細胞研究所)

● 報 告 「iACTの現状」

● 総括報告 「iACTの今後の展望」

プログラムの
詳細はこちら



参加申し込み
はこちら

